

吉田財団設立40周年記念事業

令和7年度 教材活用状況報告書

公益財団法人吉田学術教育振興会
理事長 山倉修一 殿

学校名	久留米市立南筑高等学校
学校長名	山下 経 男
報告者	栗 山 英 明
寄贈品	65 型液晶ディスプレイ式
《振り返り》	
教育的課題	<ol style="list-style-type: none"> 1.特色ある普通科にするために、地域協創クラス等の新設・改編を行った。 2.個別最適な学びを保障するために、習熟度別・少人数授業等を行っている。 3.大型ディスプレイ未設置教室で授業を受けている生徒が不利益を被る等、教室のデジタル環境整備が課題である。
教材活用の狙い	<ol style="list-style-type: none"> 1.個別最適化された学びと、多様な生徒への効果的な情報提示を促進する。 2.大型ディスプレイを活用することで、視覚的な情報を効果的に共有し、生徒の主体的な学びを促し、「一人残らず安心して学べる教室」の実現を期す。
目的達成の為の工夫	<ol style="list-style-type: none"> 1.生徒が作成したグラフ等を大型ディスプレイに映し出し、グループごとに発表・比較検討する活動を取り入れるなど、視覚的に理解を深めさせ、他者の考えに触れることで学びを深める。 2.実験の様子を動画で提示した後、生徒自身がタブレットでシミュレーションを行い、その結果を大型ディスプレイで共有し、考察する時間を設けるなど、抽象的な物理現象を具体的に捉え、主体的な探究を促す。 3.様々なアクセントの英語動画を視聴した後、生徒同士でロールプレイングを行い、その様子を録画して大型ディスプレイで共有し、改善点についてフィードバックし合うなど、実践的なコミュニケーション能力の向上を図る。
《教材活用の効果・成果》	
活用状況及び、教育的課題の解決状況	<ol style="list-style-type: none"> 1.大型ディスプレイによる視覚的な情報提示ができるようになったことで、抽象的な概念や現象の理解を促し、生徒の興味・関心を向上につなげている。 2.生徒が自身のタブレットで作成した資料等を共有することで、主体的な学びが促され、表現力やプレゼンテーション能力の育成につなげている。 3.グループワークや発表を通じて、生徒間の協同・協働が活発になり、多様な意見に触れることができ、多角的な視点や協調性の涵養につなげている。 4.生徒の学習意欲が高まり、個別最適な学びが深化している。 5. 生徒がより深く、主体的に学習に取り組むことができ、学力の向上はもとより、情報活用能力やコミュニケーション能力といった、これからの社会で求められる資質・能力の育成がさらに期待できる。

対象者・利用頻度	<p>1.1 年生普通クラス『英語コミュニケーションⅠ』習熟度別授業:3時間/週</p> <p>2.2 年生自然科学クラス『数学Ⅱ』:4時間/週、『物理』:2時間/週</p> <p>3.3 年生自然科学クラス『物理』:4時間/週</p>
目的達成状況	<p>1.個別最適化された学びの深化と、多様な生徒への効果的な情報提示ができるようになった。</p> <p>2.視覚的な情報を効果的に共有でき、生徒の主体的な学びを促している。クラス間の格差がなくなったことで本校が目指す「一人残らず安心して学べる教室」の実現に寄与している。</p>
教育的効果についての所見等	<p>貴財団から寄贈された大型ディスプレイを物理教室に設置できたことで、物理室での授業で授業を受けていた生徒・クラスの不利益・格差を解消することができた。また、今後の有効活用によりさらなる教育効果が期待できると考える。貴財団からの貴重な寄贈に対して、心から感謝を申し上げます。</p>

活用状況の写真等(当日の様子など)

3年生自然科学クラス『物理』での大型ディスプレイ活用状況



今後の活用見通し・課題

本校は「一人残らず安心して学べる教室」を実現するために人権教育を基盤とした協同学習に取り組んでいる。また、総合的な探究の時間や地域協創クラスの「社会貢献探究」でのインターンシップ、四大看護クラスの「看護探究」等で直接地域社会に出て学びを深める取組に力を入れている。そのため、物理教室に大型ディスプレイを寄贈いただき設置できたことは、今後の探究活動等での生徒同士の情報共有や発表、プレゼンテーション等で大いに活用できると考える。

今後の課題は、音楽・美術・書道教室や講義室に Wi-Fi 環境が整備できていないため、生徒一人一台の端末が使えない教室環境であることが課題である。

今後も生徒の主体的で個別最適な学びを保障するために学校を上げて努める所存である。